

科目名	臨床工学特論Ⅲ ②			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	30 回	時間数	60 時間 2 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	3年 通年
【授業の目的・ねらい】 臨床工学技士として必要な領域をすべて復習し、臨床現場で活躍するための知識を習得する。							
【実務者経験】							
【授業全体の内容の概要】 臨床工学技士として医療現場で必須となる生体機能代行装置学や医療機器安全管理学、治療機器学などを中心に総合的な知識について問題演習を通して、クラス内で理解度を確認しながら知識を深めていく。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 臨床工学技士として医療現場で必須となる、生体機能代行装置学（呼吸、循環、代謝）、医療機器安全管理学、治療機器学において国家試験の過去問題が解けるようになる。							
回数	講義内容						準備物(教材)
16	医療機器安全管理学① ※問題演習						
17	医療機器安全管理学② ※解説						
18	医療機器安全管理学③ ※まとめ						
19	医用治療機器学① ※問題演習						
20	医用治療機器学② ※解説						
21	医用治療機器学③ ※まとめ						
22	生体機能代行装置学 総復習③						
23	生体機能代装置学 総復習④						
24	総復習						
25	総復習						
26	総復習						
27	総復習						
28	総復習						
29	総復習						
30	総復習						
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 ・臨床工学技士標準テキスト 第3版、小野哲章、金原出版株式会社 ・配布資料							
【準備学習・時間外学習】 問題演習で取り組んだ国家試験過去問題において、自分の言葉で説明できるようにまとめノートを作成しておくこと。							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する 小テストを30点、中間テストを30点、定期試験を40点として合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する							